

平成30年度 学校自己評価システムシート (県立岩槻北陵高等学校)

目指す学校像	節度と規律を重んじ、新たな自分の創造に向け、常に全力を尽くす生徒を育む学校
--------	---------------------------------------

重点目標	1 生徒の学ぶ意欲と確かな学力を向上させ、生徒一人ひとりの進路実現を図る 2 家庭・地域と学校が共に教育力を高めていく 3 基本的な生活習慣の確立をめざし、規律ある学校生活を送る 4 生徒の自主活動を通し、社会に貢献する心豊かな人間形成を図る
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	14名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価						
年度目標				年度評価(1月17日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
1	成績不振者、のべ欠点数は減少傾向にあり、成績優秀者は増加傾向にある。進路ガイダンス、就労体験活動を通し、進路に対する意識は向上してきている。進学を希望する生徒も増えてきており、進学希望者に対しての指導を充実させる必要がある。	(1)学習環境を整備・充実させ、学習に集中できる環境を整える。学び直しを活用し、生徒の基礎基本を徹底させ、「わかる」授業を目指す。 (2)段階的に生徒の進路意識を向上させ、生徒一人一人の望ましい進路実現を目指す。	①チャイム着席、身だしなみ指導の徹底、授業に集中する学習環境の整備。 ②ICTの活用を含めた教科指導の工夫・改善による授業力向上。 ③学習サポーターの活用による放課後勉強会、TT授業の充実。 ④基礎力診断テストの活用。	①成績優秀者10%増、成績不振者10%減。「学習アンケート」に基づく学習態度の達成率80%以上。 ②「学習アンケート」の「わかる」項目の増。 ③勉強会への参加生徒数増。TTでの授業数増。 ④4月、1月の2回実施。5割以上の生徒の学力向上を図る。	①成績優秀者、成績不振者数は昨年度とほぼ同数であった。学習態度は、若干の向上が見られた。 ②学習アンケートで「わかる」と回答した割合が、9教科中7教科で向上した。 ③学習サポーターの活用は昨年度の2倍以上であった。 ④基礎力診断テストを4月と1月の2回実施をした。	B ・チャイムtoチャイムの教科指導の徹底。 ・成績優秀者数の増加、成績不振者数の減少に向けた取り組みの改善。 ・学習サポーターの活用回数だけでなく、活用クラス数の増加。
2	行事や公開授業の保護者の参加率は増加傾向にあるが、まだまだ低い。学校の取組を、地域、近隣中学校、外部機関にアピールしていく。HPや一斉メールの活用が課題である。	(1)HPや一斉メールを用いた情報発信を充実させ、家庭や地域、外部機関に確実に情報が伝わる体制を整える。 (2)学校説明会や中学校訪問で、在校生に参加を呼びかけ、生徒の活躍の場をより多く設定していく。	①HPの見直しと効果的な運用。 ②各学年通信を定期的に発行し、保護者の各種学校行事への積極的な参加を図る。 ③登下校巡回指導・校門付近での立哨指導の実施。 ④地域への情報発信の充実。	①HPの改善。更新数・アクセス数増。 ②各種行事、研修会への保護者の参加者増。 ③近隣からの苦情、交通トラブル、事故件数の減少。 ④学校通信を用いた地域への情報発信回数。	①HPPの見直し、改善を行った。 ②各種行事、研修会への保護者の参加者は増加し、活発な活動がなされた。 ③近隣からの苦情件数は減少した。 ④学校通信は毎月200部印刷し、ほぼすべてを中学生中心に配布した。	A ・HP更新数の増加。 ・苦情件数の減少。 ・学校通信の地域への発信。
3	以前よりも基本的な生活習慣が身につけている生徒は増加しているが、欠席や遅刻が常習化している生徒も多い。	大幅に変更された生徒指導体制の共通理解を図り、学校全体として、系統的・一貫した指導を推進していく。自主自律の精神の育成のため、マナー・時間管理の意識を向上させる。	①就労体験を通し、進路意識の向上、基本的な生活習慣の醸成を図る。 ②定期的な身だしなみ指導と確認強化週間の設置。 ③遅刻回数の自己認識と特別遅刻指導の実施。 ④健康管理の意識づけをする。	①就労体験での生徒アンケートの充実度80%以上。 ②身だしなみ指導該当者の減少。 ③遅刻指導対象者10%減少。 ④健診の呼びかけと、未受診者の減少。生徒の状況や健康に関する内容の保健便りを年間5回発行。	①就労体験活動での生徒アンケートの充実度は86.2%であった。 ②身だしなみ指導該当者は激減した。 ③遅刻指導対象者は35%減少した。(11月末現在) ④健診の呼びかけをしっかりと行い、保健便りを年間5回発行したが、昨年度と変化はあまりなかった。	B ・遅刻常習者への指導の充実。 ・検診の未検診者数の減少。
4	生徒会活動や部活動は活発になってきている。各行事を中心に、さらに活性化していく。生徒の自己有用感を高められるよう、様々な場面で生徒に活躍できる場を設けることが課題である。	生徒会活動を活性化し、部活動の参加率を高める。団活動やその他の行事を通し、生徒の自己管理力を高めていく。教育相談については、外部との連携も強化し、特別支援教育をより一層充実させる。	①各行事を生徒中心で運営する。 ②文化祭の内容、部活動勧誘の内容の充実。 ③委員会と協力し、教育相談、特別支援教育の充実を図る。 ④花いっぱい運動など、PTA主催の行事において、生徒への参加を呼びかけ、PTAと生徒との交流や連携強化を図る。	①生徒中心の運営ができたか。 ②文化祭の生徒の満足度、部活動の加入率の向上。 ③保健室利用者や、相談者への対応。SCや教育相談員、巡回支援員、外部機関との連携。 ④PTA主催の行事への、生徒への参加数増。	①生徒が中心の運営を行った。 ②新たな企画を加えた文化祭の生徒の満足度は向上した。部活動加入率は微増した。 ③担任や学年との連絡を密にし、教育相談と連携しながら、充実した相談活動が行えた。 ④花いっぱい運動では、生徒会と5つの部活動の協力を得ることができた。	A ・文化祭のさらなる発展。 ・部活動加入率の増加。 ・地域活動への参加。 ・花いっぱい運動だけでなく、他の場面での協調を検討。

学校関係者評価
実施日 平成31年1月21日
学校関係者からの意見・要望・評価等
1 学校生活アンケートの結果から教員の努力が窺える。生徒もそれに応えるように努力し、学校に居場所を見つけて生活をしているようだ。 2 進路指導が徹底されており、就職、進学ともに、生徒対応が適切になされている。 3 年度評価は妥当と見る。
1 学校通信(hokuryo.now)を区内の中学校に配付することや、自治体の回覧板に入れてもらうことで岩槻北陵高校の良さがもっと地域に伝わるのではないかと。 2 生徒の面倒見のよさも北陵高校のPRポイントである。 3 年度評価は妥当と見る。
1 登校の姿を見ると、その学校の様子がよく分かる。岩槻北陵高校の生徒の登下校の姿が年々よくなってきている。 2 学校生活アンケートの結果の中で、「朝食を食べない」という生徒が15%近くいることは健康管理上気になる。 3 年度評価は妥当と見る。
1 文化祭は年々活発になり、よくなってきている。 2 PTA活動もとても活発で、生徒とともに活動することも増え、充実している。 3 年度評価は妥当と見る。